

## 平成22年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

I. 各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患を別紙カラー写真から臨床写真(ア～ソ)と組織標本写真(1～12)を選んで[ ]に記入しなさい。

(臨床写真と組織写真は同一の患者さんのものではありません)・・・まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。

1.原因不明だが、紫外線、慢性刺激、ウイルス、とくに医療者では( )が関与し、腫瘤・潰瘍を生じる。進行すると悪臭を伴う。( )への転移もしばしば見られ、さらに肝、肺、骨などへの遠隔転移が生じる。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

2.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚、粘膜、眼のほか稀に脳軟膜に生じる。この腫瘍の診断のための検査では、( )は、禁忌とすべきである。視診による鑑別診断のABCDのAは、( )である。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

3.皮膚癌手術の中では最も多い。約85%は顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、骨まで浸潤する例もある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

4.皮膚良性腫瘍のうちでは頻度が高く、一般的には「脂肪のかたまり」と間違えて説明されることもある腫瘍である。

切開して内容除去しても多くは再発し拡大するので全摘出する必要がある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

5.この腫瘍は、良性腫瘍に分類されているが、悪性腫瘍との鑑別が必要になることもある。顔面に好発することが多く、2～3ヶ月で自然に消褪することもあるが、時に非常に拡大するものがあり、その場合は手術適応である。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

6.短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと( )と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の合併率が高い。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

II. ( )に適切な言葉を入れなさい。

動脈性潰瘍

多くは( )に生じるが、これが閉塞性動脈硬化によって生じる場合と、末梢動脈血栓塞栓によって生じる場合の一番最初に行うべき鑑別方法は、( )である。

閉塞性動脈硬化の進行分類：フォンテイン分類4度とは、( )を伴うものをいう。

静脈性潰瘍

この原因は1次性と2次性の( )が主なものであるが、1次性では( )や( )などの手術治療がある。2次性の主な原因には( )があり、1次性・

2次性ともに共通する重要な治療法として( )がある。

植皮

植皮は採皮の方法で大きく分けて2つあり、1つは全層植皮で、この植皮法には( )という長所があり、( )という短所がある。

もう1つの方法は分層植皮で、この長所は( )しやすいことである。しかし植皮は( )の部分には生着しないため( )などで再建する。